

外国船の接近と天保の改革

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

外国船が近づく中、幕府はどのように対外政策と国内の混乱に向き合ったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 外国船の接近と幕府の対応

外国船への警戒

ラクスマン

1792年に根室に来航したロシアの使節。

フェートン号

1808年、長崎に侵入したイギリス軍艦。オランダ船を追ってきた。

異国船打払令

1825年、外国船の撃退を命じた法令。

蛮社の獄

1839年、幕府を批判した蘭学者を処罰した事件。

18世紀の終わりから、ロシアのラクスマン(1792年、根室)やレザノフ(1804年、長崎)が来航して通商を求めたが、幕府は断った。1808年にはイギリスの軍艦フェートン号がオランダ船を追って長崎に侵入した。外国船の接近が続いたため、幕府は1825年に異国船打払令を出し、近づく外国船を撃退するよう命じた。

1837年には、日本の漂流民を送り届けに来たアメリカの商船モリソン号が、この命令によって砲撃された。蘭学者の渡辺崋山や高野長英は、打ち払いを批判する書物を書いたため、1839年に幕府から厳しく処罰された。これを蛮社の獄という。

その後、清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知った幕府は、1842年に打ち払いをやめ、寄港した外国船に燃料や水を与えることにした。

2 天保の改革と雄藩

国内の立て直し

大塩平八郎

1837年、大阪で乱を起こした幕府のもと役人。

水野忠邦

天保の改革を行った老中。

雄藩

改革に成功し、力をつけた薩摩藩・長州藩などの藩。

1830年代には天保のききんが起り、各地で百姓一揆や打ちこわしが相次いだ。1837年、大阪町奉行所のもと役人だった大塩平八郎は、ききんに苦しむ人々を救おうと、弟子たちと大阪で乱を起こした。乱は1日でしずめられたが、幕府のもと役人が直轄地の大都市で起こした反乱は、幕府に大きな衝撃を与えた。

老中水野忠邦は1841年から天保の改革を始め、倭約を命じ、物価を下げるため株仲間を解散させた。しかし、江戸・大阪周辺の土地を幕府の領地にしようとして大名や旗本の強い反対を受け、改革は2年あまりで失敗した。一方、薩摩藩や長州藩は、借金の整理や特産物の専売などで財政を立て直し、雄藩として力をつけた。

天保のききん
1830年代

大塩平八郎の乱
1837年

天保の改革
1841年～ 水野忠邦

反対を受けて失敗
2年あまり

問いへの答え

幕府は、ロシアやイギリスの船が近づくと1825年に異国船打払令を出し、これを批判した蘭学者を蛮社の獄で処罰したが、アヘン戦争後の1842年には打ち払いをやめた。国内では天保のききんの中で大塩平八郎の乱が起り、老中水野忠邦の天保の改革も反対を受けて失敗した。一方、薩摩藩や長州藩は改革に成功し、雄藩として力をつけた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

